

白山比咩神社

<ページトップ>

北陸地方を守る大社

白山比咩神社

<http://www.shirayama.or.jp/en/index.html>

白山と白山比咩神社

白山信仰と白山比咩神社

白山は、石川県、福井県、岐阜県、富山県の四県にまたがっています。その峰の高さと大きさから、白山は何世紀にもわたって霊峰とされてきました。白山から流れる雪解け水は広範地域にとって不可欠な水源であるため、ふもとや遠くの平地に住む人々でさえも昔から白山の重要性を理解し、年間を通して感謝の祈りをささげてきました。

古来、山は神の領域と考えられていたため、登山は禁じられていました。しかし、白山信仰の広がりとともに、人々は信仰の実践として白山に登り始め、やがて山頂への登山道がつくられました。

2,100 年以上前に創建されたとされる白山比咩神社は、何世紀にもわたって白山に登る参拝者の重要な拠点となっています。現在、白山比咩神社は、全国数千社の白山神社の総本社です。白山比咩神社は、石川県、福井県、富山県、新潟県からなる北陸地方を守る大神社でもあります。

祭神

すべての神社には、特定の神が祀られています。白山比咩神社は、海水から日本の島々をつくったとされる神、伊邪那岐命（イザナギノミコト）と伊邪那美命（イザナミノミコト）を祀っています。

また、白山比咩神社は菊理媛神（ククリヒメのカミ）も祀っています。「ククリ」とは、「結ぶ」、「縛る」という意味の言葉で、菊理媛は日本を創った二神が争いを起こした際に仲を取り持ったとされています。このため、菊理媛は、縁結びや夫婦円満の女神として崇められています。さらに、白山の雪解け水が 4 本の主要河川に流れていることから、川と海を司る水神であるともされています。

神社の御利益

祭神はそれぞれ、参拝者に特定の御利益をもたらします。白山比咩神社に祀られている三柱の神々は、五穀豊穰、大漁、縁結びなど、この農業地域において重要な事柄について幅広い御利益をもたらします。

さらに、家内安全、交通安全、商売繁盛、学業成就、夫婦円満、幸福長寿、子孫繁栄などを祈願するため、多くの参拝者が訪れます。

神紋

三重の六角形の内側に瓜の花という精巧な意匠の神紋には、縁起の良いシンボルがいくつか含まれています。六角形は、長寿の象徴とされる亀甲の紋様を表します。六角形が三重になっていること（三条の構え）は、過去から未来へ、親から子へ、子から孫へと続く家族の円満を表します。瓜の花は、昔は非常に価値が高く、通常神に捧げられるものでした。神紋の瓜の花は、後の世代が繁栄するようにという神への祈願を表しています。

境内

1.表参道

この長さ 250 メートルの広い参道には、スギやケヤキ、カエデなどが立ち並び、その奥にある神社の荘厳さを感じさせます。

2.琵琶滝

表参道に沿って流れる清流は琵琶滝から続いており、滝は夜になるとライトアップされます。水しぶきの音は、心を清めるといわれています。

3.老杉

この木は、表参道の手水舎のそばにあります。木には、御神木であることを表す紙垂のついた太いしめ縄が巻かれています。樹齢 800 年のこの木の根元の周囲は 12 メートルで、樹高は約 42 メートルです。

4.三本杉の御神木

この杉の木は、昭和天皇によって蒔かれた種が苗木に成長してからここに植え替えられたものです。

5.禊社と禊場

禊は白山の雪解け水に身を浸ける清めの儀式です。禊社は境内の奥にある小さな神社で、禊場はこの厳粛な儀式が行われる水場です。

神社の作法

鳥居をくぐる

鳥居は、俗世から神聖な敷地へ進入する際の入り口を示しています。門をくぐる前に一礼して敬意を表します。

表参道を歩く

鳥居から神社の中心までの通路が表参道です。参道の中央は神様の通り道とされていますので、端に寄って歩きましょう。

手水舎でのお清め

手水舎は表参道の奥にあります。お清めの習慣の起源は、神社の境内に入る前に海や川で儀式的に身を清めることが求められていた時代に遡ります。現在この伝統は簡略化されており、参拝者は、水で手を洗い、口をすすぐことによって禊を行います。

手水舎での作法

- 1.右手で柄杓を持って水を汲み、左手のひらに少し水をかけます（ほとんどの水は柄杓に残します）
- 2.左手に柄杓を持ち替えて、右手のひらに水をかけます。
- 3.口をすすぐ時は、右手に柄杓を持ち、カップのように丸めた左手に水を注ぎ、口に持っていきます。口をすすいだ水は手水鉢の外に吐き出します。
- 4.両手で柄杓を持ち上げて水が柄を伝うようにし、柄杓全体を洗い流します
- 5.杯を下にして柄杓をもとの場所に戻します。

神社の参拝方法

奉納

昔は普通神様にお米をお供えしましたが、今はお金をお供えする方が一般的です。神社の拝殿前には、切口のついた木の賽銭箱があります。この賽銭箱に硬貨を投げ入れます。五円玉は特に縁起が良いと多くの人が考えていますが、金額はいくらでも構いません。

二礼二拍手一礼

お賽銭を入れた後、二礼二拍手一礼をして敬意を表します。礼をする時は、背中が地面とほぼ平行になるまで、ゆっくり深く頭を下げます。拍手は、両手を肩の幅に広げて、ゆっくりと2回手を合わせます。

神社を出る

神社を出る際に鳥居をくぐったら、もう一度振り返って一礼します。

お守り

神道の伝統では、石や鏡などは、身につける者に神の力を授け、災いや危険を退けると信じられています。長い年月を経て、これらの神聖な品はお守りと呼ばれる色とりどりの魔除けとなり、さまざまな需要に対し加護と安心を与えています。

神職の祈祷を受け、神様の力を授かったお守りを購入した人は、通常それを身に着けるか安全な場所に保管します。一般に、お守りは毎年交換し、元旦に古いものを神火で燃やすのが良いと考えられています。

お守り 1,000 円

赤、青、白から選べます。

合格祈願のお守り 1,000 円

交通安全のお守り 1,000 円

赤と青から選べます。

縁結びのお守り 1,000 円

赤、青、黄から選べます。

幸福のお守り ¥800

出世祈願のお守り ¥1,000

神社宝物館

長い歴史の中で、白山比咩神社には貴重な宝物が集められてきました。ここに保管されている古い史料は、白山信仰の初期の様子を伝えるかけがえのない遺物です。また、神社宝物館には加賀藩（現在の石川県）の大名だった加賀前田氏の史料をはじめとする 16 世紀から 17 世紀にかけての貴重な史料も収められています。これらの貴重な宝物によって、過去の人々の暮らしだけでなく神社と白山の長い歴史を垣間見ることができます。

営業時間

4 月 1 日から 10 月 31 日：毎日午前 9 時から午後 4 時まで

11 月 1 日から 11 月 30 日：毎日午前 9 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

12 月 1 日から 3 月 31 日：冬期閉館

入館料

大人：¥300

18 歳未満：無料

<キャプション>

狛犬

鳳凰を描いた金象嵌の小箱